

Vol.193

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, NAGAOKA COLLEGE
KOSHI-DAI GAKUEN DAYORI



高志台

学園だより

CONTENTS

卒業生・修了生に贈る言葉	02-03
さよなら高志台 思い出のアルバム	04
さよなら高志台 (卒業生)	05-09
さよなら高志台 (専攻科修了生)	10-11
さよなら高志台 (留学生)	12-13
PICK UP 2018 TOPICS	14-15
卒業生・修了生表彰・進路状況	16

高志台 (こうしだい)

古代、新潟県を含む日本海側の一帯は、“こしのくに” (越の国・古志の国・高志の国) と呼ばれていました。
学生に高い志をもってほしいとの願いと歴史上の地名とを関連させて学校のある台地を「高志台 (こうしだい)」と命名しました。

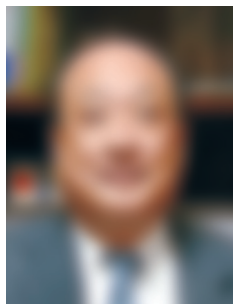


独立行政法人国立高等専門学校機構

長岡工業高等専門学校
National Institute of Technology, Nagaoka College

〒940-8532 新潟県長岡市西片貝町888 <http://www.nagaoka-ct.ac.jp/>

卒業生・修了生に贈る言葉



卒業・修了を祝して

校長 竹茂 求

長岡工業高等専門学校を卒業・修了される皆さん、おめでとう。教職員を代表して卒業生、修了生の皆さんに心からお祝いの言葉を申し上げます。また、これまで長きにわたってご支援を賜りました

保護者ならびに関係の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

今年度、準学士課程を卒業するのは、機械工学科45名、電気電子システム工学科42名、電子制御工学科39名、物質工学科47名、環境都市工学科35名の合計208名です。卒業生にはマレーシア、ベトナム、ラオスからの留学生7名が含まれています。専攻科を修了するのは、電子機械システム工学専攻26名、物質工学専攻10名、環境都市工学専攻8名の合計44名です。

卒業生、修了生の皆さんは、中学を卒業する早い段階で技術者になることを決心し、夢と希望に溢れて長岡高専に入学されました。しかし、入学後には多くの躓きや悩みがあったことでしょう。それらを乗り越えてこの日を迎えられた皆さんに敬意を表します。この門出にあたり、皆さんが高専を「今」卒業することの意義についてお話ししたいと思います。

ご存じのように、高専の制度は産業界からの強い要望で57年前に発足し、長岡高専はその一期校として設置されました。高専に期待されたことは、大学のようなアカデミズムの追求ではなく、実践的技術者の育成です。高専はこれまでその使命を十分に果たしてきました。高専の卒業生が、世界の奇跡と言われる戦後の日本の高度経済成長に大きく貢献したことは良く知られています。それでは、今の高専はどうでしょうか。

高専が設置されて半世紀以上たった今日、人工知能やIoTなどの台頭により、産業界や社会の構造は、人類がこれまで経験したことがないスピードで大きく変化しています。この歴史的な大変革を迎えている今、高専の実践的な技術者育成教育が改めて国内外で大きく注目され、期待されています。例えば、人工知能の研究者である東京大学の松尾豊先生は、イノベーションに求められる素養と高専の教育が一致していることを述べ、この日のために高専があると言ってもいい、高専生は日本の宝だ、と高専生の実践的能力を絶賛しています。皆さんは社会にでると、例外なく、同年代の技術者と比べて圧倒的な専門知識や実践的技術が身に付いていることを直ぐに実感し、松尾先生の言葉に納得するはずです。

しかし、皆さんは卒業、修了に当たり、これから高専で

学んだ何を礎にすべきか、漠然とした不安があるかもしれません。そこで、文部科学省の事業による最新の調査から興味深い統計データを紹介したいと思います。

そこでは高専卒業生の高い社会的評価について、高専在学時の何が重要であったかを調査しています。社会的評価の項目は、卒業後の所得、職場での地位、そして仕事の満足度とし、高専生活の項目は、在学時代の成績、友人満足度、そして汎用能力です。最後の汎用能力とは、実験や実習など、頭と手を使って試行錯誤でものづくりする基礎能力で、ここではものづくり能力と呼びましょう。

さて、学力は技術者にとって当然重要ですし、成績は進学を含む進路選択にも影響を与えています。そのことを前提にしても、調査結果は興味深いことを示しています。それは、在学時代の友人満足度とものづくり能力が学業成績と同じ程度に、卒業後の社会的評価と相関があったことです。つまり調査結果が示すことは、成績が悪くても仲間がいれば、孤独であってもものづくりに打ち込めば、ものづくりが不得意でも成績が良ければ、と高専教育が三段構えで良い職業的キャリアへの道を開いていることです。

実は、数値化し易い試験の成績が卒業後の社会的評価の要因の一部に過ぎないことは新しい発見ではありません。例えば経済産業省は十年以上も前に、職場や社会で必要な能力として社会人基礎力を定義しています。長岡高専も、学生達が地域の課題を発見してその解決に取り組むJSCOOPなど、主体的能力や他者との連携力を育成する様々な新しい仕組みを教育に取り入れています。従来からの部活動もその仕組みの一つでしょう。皆さんが高専生活で熱心に取り組んだ様々なことが、皆さんそれぞれの大切な礎であることを改めて認識して下さい。そして各自がそれぞれを礎にして、社会でいっそう自己研磨されることを期待します。

最後に、もう一つ大事なことをお話しします。高専に入学するのは同一年齢人口のわずか1%です。しかし、大学の工学部など高等教育機関出身の技術者に限定すれば、10人に一人が高専の卒業生です。皆さんはこれから、多くの高専卒業生が国内外で大活躍していることを知り、心強く、誇りに思われるでしょう。またその繋がりが大きな財産であることを実感されるはずです。

私たち教職員は、皆さんの人生の最も大切な成長の時を共に過し、喜びや苦労を分かち合えたことに心から感謝しています。これからの社会は、誰も想像できない未知の世界ですが、それだけ大きな可能性があります。卒業、修了される皆さんが、その最先端で活躍されることを、校長をはじめ、教職員は信じて疑いません。皆さんの活躍は、長岡高専の関係者全ての喜びであり誇りです。皆さんのご活躍を心から願っています。



新しい時代の主役に！

後援会長 小林 義明

卒業生、修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。そして、今日まで温かく見守ってこられた保護者の皆様へ心よりお祝い申し上げます。また、竹茂校長先生をはじめ諸先生方、職員の皆様の熱意あふれるご指導により卒業・修了できたことを心より感謝申し上げます。

15才の春に希望と不安を胸に、高志台へと高専坂をのぼった皆さん、長岡高専での学園生活は如何でしたか。

自主性を重んじ、自由な校風といろいろなことにチャレンジできる教育環境の下、それぞれが充実した学園生活を過ごされたことと思います。そのことは、長岡高専の名前が新聞等に躍る回数が、最近特に多くなったことから感じられます。色んな分野での皆さんの活躍ぶりを見るたびに、卒業生の一人として誇りに思い、一保護者として嬉しく見ておりました。

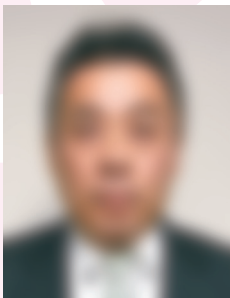
皆さんの卒業、修了は、平成から新しい年号に変わる、新たな時代の幕開けと重なります。社会構造も皆さんの活躍が期待される産業技術の分野も、今まで以上のスピードで大きく変化していくことでしょう。長岡高専の教育理念

「人類の未来をきりひらく、感性豊かで実践力のある創造的技術者の育成」そのままに、あなたたちが、新しい時代の主役になって活躍し、次世代の日本を支えてくれることを期待しています。

長岡高専は、半世紀以上に渡り1万人を超える多くの先輩技術者を輩出し、各界で幅広く活躍され、高い評価を受けております。その理由のひとつは、高専時代に知識を知恵に変える訓練が、できていたためかと思います。知識も必要ですが、ただ単に「知っている」ということであれば、今やネットで誰でも簡単に入手できます。大切なのは、その知識に経験を加え、知恵として活用する力です。皆さんも、授業で学び、研究や実習をとおして自ら考え、手を動かし、失敗を繰り返した体験・経験から、そのことを身に付けてきました。準備完了です！是非、長岡高専の卒業生として高専プライドを胸に、自信とお世話になった方々への、感謝の心をもって次のステージでも頑張ってください。

最後になりましたが保護者の皆様には、後援会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。これからも子供たちの成長を見守りながら、「長岡高専ファミリー」の一員として、引き続き長岡高専へのご声援を宜しくお願い致します。

皆様のご活躍を心からご祈念申し上げます。



「カイゼン」できる技術者になれ！

同窓会長 古田島智裕

卒業生、修了生の皆さん、卒業・修了おめでとう。皆さんの中で、この後すぐに社会に出る人は少ないと思いますが、学生終了とともに勉強しなくても良くなることはなく、社会人になっても学ぶ姿勢が重要だと言うことを忘れないでください。今は本当に日進月歩、常にアンテナを高くし情報を得ることが必要です。ただし、新しいことだけに目を向けていれば良いと言うわけではなく、現状を見つめセルフアセスメントにより評価・改善することも重要となります。

私は、研究に携わったことはありませんが、研究も社会での実務も同じなのではないかと思います。まず、実績のあるものを検証する。そして、それは改善の余地は無いか考え、改善にトライしてみる。だめなら他に道は無いか考える。改善を目指してゆくことが、会社、ひいては社会の発展につながる、それに貢献するということになります。私が今関わっている業務に、トヨタ式「カイゼン」の展開がありますが、まさに常に「カイゼン」することが求めら

れています。「カイゼン」した結果はすぐに現状となり「カイゼン」の対象となるため、本当に継続的な「カイゼン」が求められます。でも、ネタ切れも考えられますね。そんな時は、「ベンチマーキング」です。どこかに改善好事例があればそれを勉強し、取り入れる。これも「カイゼン」のひとつです。

以前、先輩にこんなことを言われました。『『ブアなイノベーション』より、『リッチなイミテーション』がよい。』と。どういうことかわかりますか？創造性に乏しい改善よりも、実績のあるものをフルコピーしたほうが、まずは近道。その後、自分達に合うようにカスタマイズ・改善してゆくことが効率的であるということです。

大発明や大発見をする人はほんの一握り。地道に改善を継続し社会に貢献する人も必要です。そして、それが大きなイノベーションにつながることもあります。目指すところがどうかは別にして、継続的な学習により改善を進め、社会・会社に貢献する。そして、自分の存在意義やモチベーションを高める。社会の大きな波に飲み込まれないために、必要なことかと思います。

いずれにしても、一人では大変、仲間を作って協力することが重要ですので、コミュニケーションスキルはしっかりと身につけてください。

そして、新たな世界へGo！

さよなら高志台 思い出のアルバム

2014-2018

2014.4.7 入学式



本科1年生209名、3・4年編入生8名、専攻科生37名、総勢254名が新たに本校の一員に加わりました。

2015.2.6～13 学年末試験



2016.5.19 遠足



2016.9.28 3学年工場見学



2017.12.13 クラスマッチ



2019.1.31～2.1 卒業研究発表会



2014

2月 関東・甲信地方を中心として記録的大雪

4月 消費税が5%から8%に増税

7月 集団的自衛権の行使を認める憲法解釈の変更を閣議決定

2015

3月 北陸新幹線開業

6月 改正公職選挙法成立

8月 戦後70年

9月 安全保障関連法成立

10月 マイナンバー制度施行
TPP大筋合意

11月 パリ同時多発テロ

12月 113番元素の命名権を獲得

2016

1月 大相撲初場所で琴奨菊が日本人力士として10年ぶりの優勝

3月 北海道新幹線開業

5月 伊勢志摩サミット

8月 リオデジャネイロオリンピックで過去最高の41個のメダルを獲得

10月 大隅氏にノーベル医学生理学賞

2017

1月 アメリカ大統領にトランプ氏が就任

2月 プレミアムフライデー初実施

4月 世界フィギュアで羽生が世界最高得点で優勝
フィギュア女子の浅田真央が引退

6月 天皇退位特例法が成立
上野動物園でパンダ誕生
14歳棋士の藤井4段が29連勝の新記録

10月 衆議院選で自民が圧勝し、立憲民主が野党第1党に

2018

11月 TPPが米国抜きで大筋合意

1月 築地市場最後の初競り
箱根駅伝で青学大4連覇

2月 平昌五輪でスピードスケート女子の小平、高木菜らが金メダル

6月 史上初の米朝首脳会談

7月 サッカーW杯で日本16強

9月 北海道地震
自民総裁選で安倍首相が3選

10月 本庶氏にノーベル医学生理学賞

2014.10.31～11.2

学園祭「高志祭」



2015.5.7 学生総会



2016.1.13～15

2学年スキー合宿研修



2016.8.3

Nagaoka高校生フェスタ

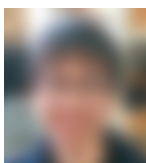


2017.9.26～29 4学年見学旅行



2018.10.19 体育祭



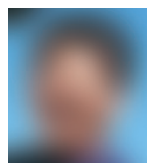


感謝
大竹 勇輝

今思うと、少しきつくなった制服を着て臨んだ入学式がついこの間の出来事のように感じます。それは、勉強や課題で忙しかっただけではなく日常がとても充実していたからだと思います。

私の高専生活は決して楽しい思い出ばかりではありませんでした。どちらかという、挫折と悩み事の連続だったように感じます。慣れない環境での初めて習う専門科目や理数科目、部活動など。時には、高専は自分の来るべきところだったのか、他の道の方がよかったのではと毎日のように考えることもありました。そんな辛い時、友達や先生方、家族が寄り添ってくれました。そのおかげで、自分自身も悩みを真正面から向き合うことができ、自分を知るきっかけや成長につながりました。高専での経験は教科書では教えてくれないようなことばかりで、今ではここに来てよかったと胸を張って言えます。

春からは高専で学んだことを発揮したいと思います。それが支えてくれた皆さんへの恩返しになると思っています。最後になりますが、今まで支えてくれた皆さん、成長の場をくれた長岡高専、本当にありがとうございました。

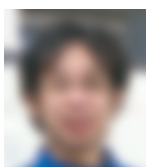


ありがとうございました。
溝口 倭

入学して初登校の朝、僕は寮のベッドで小さな地震とともに目を覚ましました。その小さな地震は、5年間という長い高専生活に対する不安を象徴しているかのようでした。とても不思議な朝だったのを今でも覚えています。僕の高専での生活はあの日の小さな地震のようでした。安心しきっている毎日の平穩の中に、突然現れる小さな揺れ。それは僕を不安にさせ、適度な緊張をもたらしてくれました。しかし、その揺れによる僕への被害はほとんどなく、逆に次に来る不安とどう向き合うのか考えさせてくれました。工学系であるにも関わらず、抽象的な例ですみません。

高専での5年間はとても長く感じました。しかし、その長さのおかげで、自分が将来どうありたいのか真剣に悩み考えることができました。出した答えが正解なのかは何十年も先にならないとわからないかもしれませんが、自分が選んだ道を信じてこれからも進み続けていきたいです。

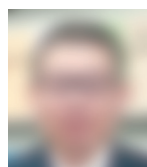
最後に長岡高専、ありがとうございました。今後のさらなる飛躍を祈念いたします。



「長岡高専卒」に誇りを
3～5学年クラス担任 山岸 真幸

君たちの学年は、本校で初めての混合クラスとなった学年でした。そのためでしょうか、1年次の学科授業で教室を訪れると、クラスの空気に「？」と感じました。その後もこれまでの学年と違う雰囲気、担任が決まってから「さて、どう舵を取るか？」と思ったものです。そんな君たちが、もう卒業です。5年間は長かったですか？ 短かったですか？ その間、どんなことに挑戦し、何を学びましたか？ 就職して社会に出る人、もっと勉強しようと進学する人、道はそれぞれですが、皆新たな一歩を踏み出すこととなります。不安もあるかもしれません。困難が待ち受けているかもしれません。これまでの様には行かないことは確実です。この先の長い人生、努力を続けていかなければならないでしょう。でももし、ちょっと困ったな、疲れたな、と感じたら、長岡高専を訪ねてください。仲間に声をかけてみてください。そんな学校とクラスであったなら、何よりです。さあ、胸を張って前に進みましょう。

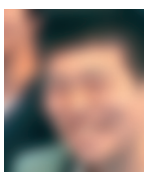
卒業、おめでとう！



卒業、おめでとう！
2学年クラス担任 佐藤 直紀

1年生における混合学級が始まって最初の学年が君たちです。2年生になって機械工学科だけのクラスになりました。異なるクラスから集まった2年生を相手にすることはもちろん初めてで、名前と顔をきちんと一致させることから始まりました。君たちはどうでしたか。学科ごとのクラスになって4年、今ではきっと強い友情で結ばれているはず。何か行事があると機械工学科2年は、一番目になることが多く、それまでに何回もあったことなのに、どう指導するか手順に迷った記憶があります。最初のクラス行事5月の遠足はとくに大変でした。2年生が全員集まるとどこに機械工学科2年の学生がいるのかわからなくなるような状態でした。そのときは、自転車を持っていった学生が一人居て、良い目印になってくれました。また、遠足係が頑張ってくれて、焼きそばも上手にできました。ソースが焦げてちょっとほろ苦い焼きそばでした。授業では欠席がかなり目立つクラスでしたが、このような学生会行事への参加率は毎回100%でした。そこが君たちの良いところでした。イライラすることも多々ありましたが、心の底では信頼していましたよ。本当に、卒業おめでとう！

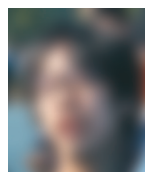




5年間を振り返って 新野 謙

これまでの高専生活を振り返ると、たくさんの思い出がよみがえります。クラスの仲間達との何気ない学校生活や、バスケ部での練習の日々など、楽しいことはもちろんですが、大変だったことも含めて、そのひとつひとつが今の自分にとって無くてはならないものだったように思います。部活や日々の授業、課題、実験レポート、卒業研究等、困難な場面に出くわしては歯を食いしばって、ひとつひとつ乗り越えて、そうしていつのまにか5年という日々が経ちました。入学してから、自分がどのくらい成長したのか、今は正直言ってわかりません。でもこの先の未来で待ち構えているだろう様々な困難な場面では、高専で過ごした5年間の経験が自分を支えてくれるだろう、という気がしています。そしてさらに自分を成長させていきたいと考えています。

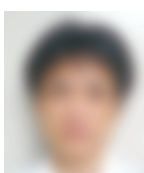
最後に、お世話になった先生方、クラスの仲間、部活の先輩・後輩、そしてここまで温かく見守ってくれた両親にこの場を借りて心から感謝いたします。どうもありがとうございました！



これまでありがとう、これからもよろしく 高野 樹

入学してからはや5年が過ぎようとしています。小学生では6年間、中学生では3年間を同じ学校で過ごしましたが、長岡高専での5年間はそれらとくらべてもとても密度の濃い時間だったように思います。1年生では混合学級でしたが、2～5年生では電気電子システム工学科として同じメンバーで4年間を一緒に過ごしてきました。そのなかでお互い切磋琢磨して成長してこれたと思います。大変だった日々の課題や実験レポートも、協力し合いなんとかこなしてきました。気付けばもう卒業です。私は専攻科へ進学する道を選びました。同じ専攻科へ進む仲間たちとはあと2年間付き合うことができます。でもほとんどのクラスメートは、それぞれの道へと歩んでいきます。すこし寂しいですが、みなそれぞれの道で頑張ってほしいなと思います。私もみんなに負けないように2年間でこれまで以上に頑張っていきたいと考えています。

これまでお世話になった先生方、クラス、部活のみなさん、そして温かく見守ってくれた両親に心からお礼を言いたいです。どうもありがとうございました。



卒業おめでとうございます 3～5学年クラス担任 島宗 洋介

みなさん、卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。皆さんとの初めての出会いは3年前の始業式前のホームルームでした。極度の緊張で、始業式が行われる体育館へ移動する時刻をとくにすぎてしまい、片桐さんから「先生、他のクラスの人たちはみんないないけど大丈夫ですか？」と心配されたことを今でも鮮明に思い出します。あれからもう3年です！ 大変なことももちろんたくさんあったけれど、みんなのことを思い出そうとするといつも笑顔ばかりが浮かんできます。みんな、それぞれに様々な悩みを抱えながら高専生活を送ってきたことなのでしょう。でも、時折見せてくれる笑顔が私にとってはみなさん一人ひとりの一番の思い出です。この先、幾つもの困難や挫折を経験することなのでしょう。でも、笑ったり微笑んだりできる余裕をキープしてください。困難に立ち向かう勇気がちょっとばかり割り増しすると思います。高専生活は、決して楽ではなかったはずですが。それを生き抜いてきた自信をもって、是非この先しっかりと歩んでいくことを心から願っています。



卒業おめでとうございます 2学年クラス担任 大森 理聡

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。混合学級クラスとして初めての学年、私個人としても高専初めてのクラス担任でした。3組で遅くまで本気で制作したお化け屋敷、授業担当者の誰もが反応が良いという明るいクラスの電気2年。みなさんの優しさ、明るさに何度も助けられ、楽しませてもらいました。

入学当初に、みなさんには期待していたことがありました。「高専での生活に慣れ入学当初の目標が変わることもあるでしょう。しかし、5年後にいい高専生活だったと言えるように高専生活を充実させてください。」充実し、いい高専生活だったのでしょうか。社会情勢は絶えず変化し、新しい技術が開発され、受容され、コモディティ化し、さらに新しいものが生まれる。追いかけるのが大変な時代ですが、みなさんが高専生活で、学んだ知識や技術、築いた人間関係が必ず助けてくれるでしょう。

高専で学んだことに誇りを持ち、自分の人生を楽しんでください。ご活躍を期待しています。





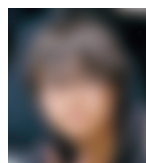
ナイモノバカリだからドキドキしてばかり 五十嵐 勇人

僕は自分を“ナイモノバカリ”だなあと思います。おそらくこれには、僕が5年間没頭し、たくさんの時間を費やしてきた“ロボコン”活動に大きな影響を受けています。

高専にいてロボコンに関わっているような人はどこか尖っています。そんな環境の中では、なにかをしようとすれば僕よりもうまく出来る人は近くに多いのです。ときには僕がうまく出来る側になることもあるわけですが、それは明らかに少数です。僕にはない力を近くの誰かは持っているのです。僕はナイモノバカリなのです。

ナイモノバカリは決して悪くはないと思います。自分のナイモノが必要になったとき、それを持っている誰かに力を借りることが出来ます。誰かに頼る、協力する中でそのナイモノを誰かから得て、また新たなナイモノが生まれてきます。またナイモノバカリの状態、そんな僕はきっと、永遠の未完成です。

でも僕はナイモノバカリだからこそドキドキしてばかりで楽しいのです。だからここで得た環境、つながりを大切に、新生活でもナイモノ繋がりをひろげたいです。



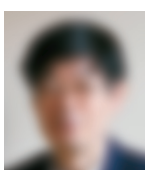
ありもしない彼らと 小日向 雄吾

僕はこの工学を学ぶ場所である長岡高専で、小説の執筆や演劇を続けてきました。しかし僕は全く後悔をしていません。そういった活動は、かけがえのない糧であるからです。

役を演じるということ。物語を描くということ。それらは自分とは全く違う誰かの人生を体験するということです。僕の描いた物語には、楓の精霊や大昔のアンドロイドが登場しますが、彼らは当然虚構の存在です。しかし、彼らを創った僕や、彼らを演じた後輩たちにとって、彼らの意思や感情は、確かに存在するものなのです。もちろん、彼ら以外の登場人物も。そして、自分ではない登場人物の人生を体験することは、自らの相違点を見つけ自らを知ることにつながります。そのことが、人生における無二の糧となるのです。

僕がこのことに気づけたのは、ひとえに高専という環境があったからです。好きなことをできる時間、更には自由な校風であるがゆえに個性的な人達。それがあったからこそ僕はここまで創作に打ち込み、成長できたのです。

僕を成長させてくれたこの場所に、最大級の感謝を。



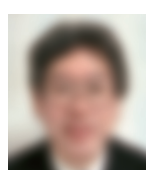
より一層の輝きを 3～5学年クラス担任 高橋 章

卒業おめでとうございます。

3年前に皆さんのクラス担任となったときの第一印象は、明るく賑やかな学生が多く、学生間のコミュニケーションが良好に保たれているというものでした。一方で、私語がやまずに教室が騒々しいと感じられる場面もありました。ここに書いたことは、一つの特徴を良い面としてとらえた評価と、悪い面としてとらえた評価になっていると感じられませんか？

両面性がある特質については良い面（光）を引き出し、悪い面（影）を抑えることができるようになることが理想です。そのことに皆さん自身が気づき、行動に表すようになってもらいたいと考えて、指導にあたってきたつもりです。共に過ごした3年間で、輝きを増してくれた皆さんを誇りに思い、成長の過程を見守ってくださった保護者および教職員の皆さまに感謝しています。

高専卒業という人生の節目が改元の年に重なるというのは、望んでも経験できることではありません。これを幸運ととらえて、次の目標に向かって励み、さらに自分を磨いていただけたらと思います。



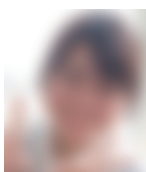
変化を乗り切るには 2学年クラス担任 山田 章

ご卒業、おめでとうございます。5年前の入学時に私から「高専生活に必要なもの」として「挑戦」と「継続」を挙げましたが、実行できたでしょうか。

皆さんが入学した平成26年度から混合学級が始まりましたので、皆さんは混合学級を経験した最初の卒業生です。その後も長岡高専では、プレラボ制度や学科横断型プログラム、国際交流や起業家育成を目指したものなど、様々な新しい教育が導入されてきました。皆さんは変化の多い5年間を過ごし、しっかりと力をつけて卒業の日を迎え、それぞれが新しい環境に進んでいきます。

世の中もAIなど新しい技術が発展してきて、ますます変化が激しくなっています。変化に適応するには「学び続けること」が大切です。また、変化すべきもの・させるべきものがあると同時に、変化させてはいけないものもあります。物事の本質を見極め、大切なものを見失わない判断力も必要です。長岡高専で学んだことを元に今後も努力し、変化への適応能力と判断力を獲得して行ってください。皆さんの今後の活躍を期待しています。



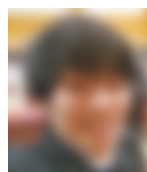


五 / 二十年間
稲生穂乃香

5年間何をしたかなと思い返すと色々浮かびます。私は将来就きたい職業があり、長岡高専に入学しました。全てが新鮮で、キラキラした気持ちで毎日学校に通っていたのを覚えています。

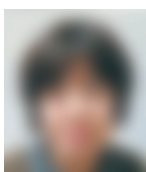
書道部と吹奏楽部に入って放課後は毎日活動に励んだ、プレラボに参加して研究し初めて学会での発表を経験した、テスト期間は友達と夜まで残って頑張った、卒業研究は夜遅くまで仲間と頑張り、太陽電池の学会でポスター発表をした、となかなかイレギュラーな学生生活だったなと思います（笑）。興味を持ったこと、やってみたいと思ったことは何でもやらせてくれるのが、長岡高専の良いところだと思います。そして熱心に指導してくださる先生や先輩がいる最高の環境だ！ と思い、色々な事に挑戦しました。何事にも苦労は付き物で、沢山悩みましたが、今はそれが自分を成長させてくれたのだと気付きました。苦しすぎたけど、楽しかった5年間でした。

沢山の勉強、経験をさせてくれた先生方と先輩、クラスメート、後輩の皆さんありがとうございました。



ありがとうございました
西脇 優作

校内に自動販売機が置かれていることに衝撃を受けた中学3年生の私。当時白衣を着て実験することに憧れを持っていたこともあり、高専への入学を即決した5年前。単純な理由でしたが、この学校に進学したいと思った昔の自分をほめてあげたいです。レポートが終わらず徹夜、テスト勉強で徹夜と、窓から差し込む朝日を拝んだ午前4時。もちろん大変なこともありましたが、そんな日々もあったなと笑えるほど、充実感があります。そう思えるのも、高専で出会った仲間、先生、先輩、後輩がいてくれたおかげです（涙）。個性的な人間が多かったからこそ、たくさん影響を受け、視野を広げて様々な事を経験することができました。5年と言われれば長かったような気がしますが、卒業する今となっては、もう少し時間が欲しいのも事実です。この学校で築いた人間関係や経験は、将来の自分にとって大変価値のあるものだと思います。高専から授かったものを忘れず次のステージに進みたいと思います。本当にありがとうございました。油そば大好き!!



卒業おめでとう、そして、ありがとう。
3～5学年クラス担任 奥村 寿子

私の人生初担任を振り返ってみると…あっという間の3年間ではなく、結構長かったです。それだけ、皆さんと一緒に過ごした3年間でとても充実していて、楽しかったということだと思います。ここでは、そのことに対してお礼を言いたいと思います。大好きな皆さん、私に楽しい時間を与えてくれてありがとう！ 遠足や見学旅行などいろいろなイベントもありましたが、それよりも日々、誰かと顔を合わせ、楽しく話せた毎日の記憶がよく思い出されます。内容はあまり覚えていないので、大概くだらない話ばかりしていたのかもしれませんが、それはそれで素敵な時間でした。

そしてこのクラスは、常にギリギリ50人超えない大所帯で、教室では鮎詰め状態でしたが、明るくて元気な学生が多く、それぞれに個性があるけれど、ほどよい距離感を保ち、上手く協力し合って過ごしてきた気がします。

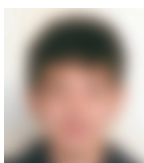
今後それぞれの道を歩んでいくと思いますが、高専での楽しい思い出は忘れずに、一緒に過ごした仲間とのつながりは大切に、お互い楽しくやっていきましょう！



ご卒業おめでとうございます
2学年クラス担任 大湊 佳宏

皆さんと一緒に過ごした1～2年間をつい最近のように感じます。1年次に混合学級を経験した皆さんは、その環境を活かし様々な人たちと交流しコミュニケーションをとることが出来たでしょうか。国際的な感覚を磨いてほしいと数多く用意された海外派遣研修や海外インターンシップ・プログラムに参加し、自身のグローバルマインドを滋養することができたでしょうか。エンジニアを養成する学校に入学し数多くの講義や実験実習を積み重ね、来年からはエンジニアとして社会で活躍できる自分になることができましたか。なんとなく過ごしてきた日々の中では得ることのできないものがあります。他人の意見に流され、やりたいことを我慢し、親や教師に言われたとおりに進むだけの人生には、あなたが探し求めている答えはないと思います。今日卒業を迎えるにあたり、皆さんはいかがですか。皆さんの目の輝きや立ち振る舞いを見れば、そして周りの人たちにかける言葉の1つひとつを聞けば、すぐに分かりますね。さあ次のステージに向かって、行ってらっしゃい。そうそう、あのTシャツまだ大切に持ってますよ…。



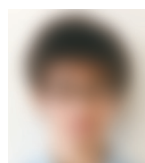


5年間を振り返って 大越 悠生

卒業式まであと2か月を切ろうとしています。長いと思っていた5年間もあったという間でした。この5年間はとても充実していて、様々なことを経験することができました。

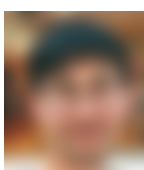
入学した当初は、英語が苦手だったので、成績はあまりよくありませんでした。しかし、多くの留学生がいることや技術者には英語が必要だということを知り、英検やTOEICに積極的に取り組みなんとか克服しました。

学校生活では自分にない知識や能力を持った友人に出会いました。私は通生でしたが1年生の混合学級で合宿研修やテストなどを通じて、多くの刺激を友人たちから受けました。授業や課題に追われる日々を乗り越えることができたのも協力し合える友人がいたからだと思います。5年生ではシステムデザイン教育プログラムに参加し、チームで協力して取り組み、課題解決に向けたコミュニケーション力などを学びました。私は専攻科に進みますが、これからも学び続けることができることに感謝しています。お世話になった先生方、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。



5年間を振り返って 永井 孔明

5年間を振り返って思うことは高専を選んでよかったな、ということです。入学してすぐにあった2泊3日の合宿研修、2年生のスキー合宿、4年生の研修旅行、どれも素晴らしい思い出です。そして5年生、6月に受験があり、無事専攻科進学が決まりました。受験が終わると本格的に研究が始まりました。授業がなくなって膨大な時間ができ、一日の大半を研究の時間に充てられます。しかし今まで机に向かって勉強していたのとは違い、課題もなければテストもありません。何をすべきかを自分で考え、時間を有効に使うことの重要性を学びました。5年間後悔することもあります。チャレンジが少なかったことです。海外派遣やSDICなどのプログラム、様々な検定などもそうですが、あの時やっていたらよかったなあ、と思うことが多々あります。最後に、私は専攻科に進学し少なくとも2年間、高専で過ごします。その2年を振り返ったときに、専攻科を選んで良かったと思えるように、過ごした時間を後悔しないように、外の世界に目を向け、様々なことにチャレンジしていきたいです。



新しい舞台へ

3～5学年クラス担任 押木 守

この春に卒業を迎える卒業生の皆様、大変おめでとうございます。第3学年時からクラス担任を受け持たせていただきましたが、皆さんが卒業研究発表会までぐんぐんと成長していく姿を見ることができたことを大変幸せに思います。

さて、皆さんは4月から新しい環境の中で新たな生活をスタートすることになりますが、どんな希望や夢を持っていますか？ その目標を達成するために長岡高専で学習した内容や培った友人関係が役立つ機会が必ず出てくるはずです。皆さん一人一人が輝かしい目標を胸にし、社会で活躍する人材となるべく、さらに成長・ご活躍されることを強く願っています。

現在、スマート社会の構築に向けて、世界全体が超特急スピードで変革しています。その動きに合わせて、我々、技術者に求められる技術もめまぐるしく革新を遂げています。学校を卒業してから皆さんが社会で学ぶことはまだまだ沢山出てくるとと思いますが、貪欲に知識や技術を習得し、我が国を背負って立つエンジニアになる日を楽しみにしています。引き続き、頑張ってください！



かつては皆子供だった一大人になった(?)君たちへ

2学年クラス担任 猪平 直人

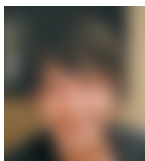
卒業おめでとう。君たちは初の混合学級を経験した学年で、2年次のクラス替えは、私にも初めての体験でした。そこはかとなく緊張感の漂う中、新年度が始まりましたね。しかしクラスがなじんでくるにつれて感じたのは「何という甘えんぼ達の集まりか！」ということ。言っても言っても直らないところや、構ってほしくて待ち構えている感じなど、甘えや子供っぽさを何度注意したことか！ それでもその多くは、愛すべき幼さでした。

卒業を迎えた君たちは以前より確実に成長し、大人になっていることでしょう。ただ、人間の根本は案外変わらないものです。人の心の温かさを求めるという意味で、甘えは、互いの愛情を大切に、最も重要な人間性に通じています。昔は甘えんぼだった君たちに、ゲーテの言葉を一つ。「老いては子供に返ると言うが、そうでなく、老いてこそ神に近い本当の子供に育つのだ。」君たちの溢れる笑顔に囲まれていた日々は楽しかった。その素直さや温かさを、これからも大事にしてください。歩み続ける君たちの行く手に、多くの幸せが訪れますように。





厚切りジェイソンとテレビに写った時の写真



異世界転生生活

電子機械システム工学専攻（機械工学科出身）

高橋 和也

ついに7年間の高専生活が終わってしまいました。今思えば中学生の頃は「理屈っぽい」と言われる事が多くあまり自己主張をしない方でしたが、高専に入ると周りも理屈っぽい人ばかりでとても居心地がいいなあと思ったことを覚えています。どうも高専という環境が性にあっていたらしく、またそれを先生に見抜かれてしまったらしく、メキシコに行ったり、厚切りジェイソンさんに取材されたりと7年間色々なチャンスを恵んでもらいました。僕にとってはたまたま僕みたいな人間が活躍できる異世界に転生したみたいな気分でした。

僕の思う高専のいいところは先生が学生をリスペクトしてくれているところです。高専は高校生に比べれば年上でも、大学生に比べればまだまだ子供ですし、もちろん社会人に比べたら常識も経験ありません。それでも先生たちは学生を信頼して色々な仕事を任せてくれますし、学生がやることを応援してくれます。僕が高専生活を楽しんでこられたのも、今の僕があるのも本当に先生方のおかげだと思います。本当に先生方には感謝してもしきれないです。本当にありがとうございました。

そうした先生方のおかげもあって、最近の学校はどんどん変わってきたなと思います。もし今僕が1年生として入学したらかなり違う学生生活だったんじゃないかと思うほどです。「最近の若い子は…」と言う人もいますが、今の後輩たちを見てみると、色んなところに留学に行ったり、ロボコンでいい賞をとったりと、僕なんかよりもずっと充実した学生生活を送っていると感じます。だからこそこれから学生も、先生も、もっともっと楽しめるような学校になってくれたらいいなと思います。



7年間の高専生活

電子機械システム工学専攻（電気電子システム工学科出身）

牛腸 裕貴

私が長岡高専に入学してから7年が経ちました。そして、専攻科に進んで2年が経ちました。振

り返してみるとかなり充実した2年間だったと思います。

2年間でインターンシップや学会等に参加し、今まで経験したことのない経験が沢山できました。研究では、条件をいくつか設定し、何度も実験を繰り返してより良い成果が挙げられるように努力しました。その結果、

電気学会では優秀発表賞に選ばれ嬉しかったです。また、学会や1年次の英語プレゼン、2年次の口頭発表をすることで様々な面で成長できました。これからも今より沢山成長できるように精進したいです。

最後に、この2年間研究等でお世話になった床井先生、授業や実験等でお世話になった先生方、本当にありがとうございました。



第28回電気学会東京支部新潟支所研究発表会の表彰式にて



充実の高専生活

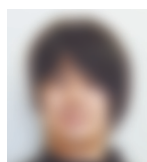
電子機械システム工学専攻（電子制御工学科出身）

長谷川 慎吾

私が高専に入ってから7年間になるうとしています。入学してからの本科時代は寮に住む仲間と恵まれ、日々の授業や課題に苦戦しつつも仲間と助け合い、充実した日々を過ごすことができました。専攻科に進学して1年次は研究に授業の課題と日々めまぐるしく追われながらもやる気に満ち溢れ、挑戦的な日々を送れたように感じます。毎週のように出る課題を効率よく処理しながら研究もするのはハードなスケジュールでしたが、それもまた良い日々でした。2年生の前期は就活と研究を中心とした日々を過ごしていました。普段の授業も有り忙しかったのですが、不思議と公私共に充実していました。人間少し忙しいくらいのほうが充実した時を過ごせるように感じます。そういった環境に身を置けたのも日々支えてくれた両親、指導して下さった先生方のおかげです。ありがとうございました。



3年間を一緒に過ごした旋回型クレーンモデルとともに



高専だったから良かった

物質工学専攻（物質工学科出身）

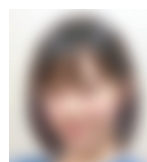
伊佐 猛

高専7年間、変わらない学校で変化も刺激もないと思っていました。しかし、逆だったのです。専攻科に入ること、大学の学部生より多くの学会へ出向いたりして、多くの刺激を貰いました。自分の研究について自分では調べた気に、知っている気になっていたとしても、いざ質問されると中々答えられず意気消沈することもあれば、さらに自分の思いもよらなかったアドバイスを貰うこともありました。そうしてまた勉強し、考えて、研究し、の繰り返し。そうすることで新たな自分に生まれ変わり、少しは成長出来たかなと私は思います。それも、専攻科に行くことで3年間研究を継続できたからこそ可能なことだったのだと思います。さらに、4,5年生や、特に専攻科では学科横断型の授業がありました。今まで知らなかった他学科他分野の知識は、似たような内容



国際会議 3rd STI-Gigaku 2018のポスター発表にて

の授業に飽きていた僕には最高の刺激でした。刺激と言えば、専攻科生として研究室やシステムデザインの授業で後輩を指導するというのもとてもいい経験でした。部活も7年間やっていたのですが、指導というのはただ教えるだけでなく、分かりやすく教えることで自分もより成長出来るものなのだなと、改めて感じる事が出来て楽しかったです。また、学業以外の学校生活においても非常に充実していました。新たに専攻科で出来た友人と出かけたり、長く続けたダンス部で学外でのダンスバトルに行ってみたり、学園祭で個人企画を立ち上げDJやダンサーを呼び交流したりと、多くのことに挑戦できました。勉強も研究も生活も、時にはつらく、時には楽しく、刺激と甘みが混じり合い、飽きることのない最高の7年間でした。7年間ありがとう、そしてさよなら長岡高専。



たくさんの出会いに感謝

環境都市工学専攻（環境都市工学科出身）

石丸 美穂

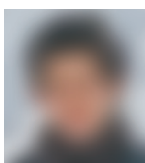
7年間という年月は長いようですが、過ぎてみればあっという間だったなと感じます。これまでの学生生活を思い返してみると700字の原稿には収まりきらないほど様々な出来事があり、どれも大切な思い出として私の心の中に残っています。

専攻科に進んでからは特に充実した日々を過ごすことができた様に思います。卒業した留学生の祖国のマレーシアへ旅行に行ったり、専攻科の仲間とともに学祭で出店したり、友人達と共にバンジージャンプにチャレンジしたり、楽しい思い出を作ることができました。決して楽しかったことばかりでなく、時には辛いこともありました。特に研究室に配属されてからは、失敗続きの実験や慣れない論文の執筆、学会での研究発表に追われ精神的に苦しい時期もありましたが、頼りになる先輩方や楽しい友人達の支えがあったお陰でなんとか乗り越えていくことができました。

これほどまでに充実した日々を送ることができたのは、たくさんの人との出会いに恵まれていたからであり、改めて高専に入学して本当に良かったと心から思います。春からは社会人として新たな環境での生活がスタートしますが、これまでの高専生活で得たものを糧に、これからの人生を歩んでいこうと思います。

最後に、これまでお世話になったすべての方々へこの場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



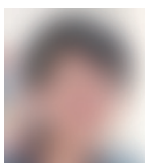


ありがとう長岡高専

電気電子システム工学科

チャン ジュン イ

皆さんこんにちは。電気電子システム工学科のチャンと申します。長岡高専に入学する前は、マレーシアのINTECで2年間日本語を勉強しました。日本語は、その複雑な文法がむずかしく、また覚えることがとてもたくさんあったので苦労した思い出があります。高専に入ってから授業で先生の説明が聞き取れなかったり、クラスメートの話していることがきちんとわからなかったりしたこともありましたが、今ではずいぶんとわかるようになり話もできるようになりました。日本の食べ物はマレーシアと全然違うので、最初の頃は慣れませんでした。今はだいぶ慣れてきました。高専生活では優しい先輩達やチューターがいたおかげで、不自由なく生活することができました。授業では課題や実験レポートで大変でしたが、仲間と協力しあい、日々の問題を解決することができました。授業以外にも国際交流イベントに参加したり、大変貴重な経験をすることができました。これらの経験をもとに、大学でも一生懸命頑張っていきたいと思います。3年間、大変ありがとうございました。



また会いましょう！

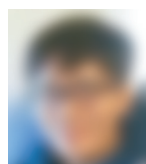
電気電子システム工学科

ファム ザ タオ

高専に来る前はベトナムから鹿児島に行き、2年間アルバイトしながら日本語学校へ通い、日本語を勉強しました。その後、先輩からのすすめもあって、長岡高専へ進学することを選びました。入学してからは長岡高専へ来る前には想像もできなかった生活が待っていました。寮での生活はさまざまな規則があり、慣れるまで大変でした。そんな時は、チューターさんや寮務の職員の方々、先生方が助けてくれたのでとても助かりました。ク



ラスでは、いろんな人たちがいて雰囲気は明るく、楽しく過ごすことができました。勉強は難しく、大変だったですがまわりのみんなや先輩方に助けていただき、無事にここまで過ごすことができました。学校生活以外にもいろんな活動に積極的に参加して、とても貴重な経験をすることができました。研究では自分の興味のあることに取り組むことができ、難しいけれど大変充実した研究生生活を送ることができています。卒業後は専攻科でさらに頑張っていきたいと思います。みなさんここまでありがとうございました。

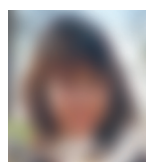


感謝・感激

電気電子システム工学科

チャン ダン

ベトナムで高校を卒業後、日本へ留学することを決めました。初めて外国にきたのは日本でした。最初の頃は、ベトナムと日本の文化の違いに驚いたり、苦労したりとの連続でした。慣れない一人暮らしをしながら日本語の勉強はほんとうに大変でした。しかし、少しずつ日本での生活にも慣れ、そして将来は電気に関する仕事をしたいと考えるようになり、長岡高専の電気電子システム工学科への進学を決めました。授業での先生の話が聞き取れないこともしばしばありましたが、次第に慣れました。わからないことはチューターや先生方が教えてくれたので本当に助かりました。授業や実験、そしてレポート提出など日々の学業ではとても大変でくじけそうになることもありましたが、周りの人たちに支えられ、やっと卒業が見えてきました。大変な3年間だったけど、もう長岡から離れると思うととても寂しい気持ちです。でも、新しい大学では長岡高専で学んだことを基礎として、さらに頑張っていきたいと思います。みなさんどうもありがとうございました。



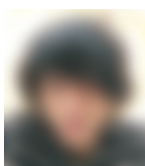
花様年華

物質工学科

リー カー マン

花様年華という、「満開の花のように人生で最も美しい瞬間」を意味する言葉がこの3年間を一番適切に表すことができます。今振り返ってみると、本当に美しい思い出であふれた3年間でした。満開の桜の美しさに感動した思い出、初雪にテンションが上がり留学生達と一緒に雪遊びをした思い出、初めてプリクラを撮った時ワクワクした思い出、見学旅行の時ホテルで仲間たちと夜遅くまでお話しした思い出、日本語でうまく発表できるようになくさん練習した思い出、とても550字の原稿には収まりきらないほどたくさんの鮮明な思い出がありました。

いつの間にか長岡は私にとっても「外国」のことではなく、「地元」と思い込んでしまうほどになりました。周りにいた気遣ってくれる皆さんのおかげで、このような安心感を感じられました。そして、いつも私のことを信じたり支えたりしてくれて本当にありがたいと思います。この先にもっと困難な道が私を待っているかもしれませんが、長岡高専で学んだことと経験を生かして困難を乗り越える自信があります。最後に、奥村先生、村上先生をはじめ、お世話になった諸先生方、クラスの仲間、研究室の皆さん、チューター、留学生の皆さんに、この場を借りて感謝申し上げます。

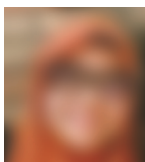


さよならは切ないよねー

物質工学科

フィルダウス イブラヒム

この3年間でYOLOという「人生一度きり」の意味がよく理解できました。日本が初めての海外である私は、新しい環境で住むことがちょっと大変だと思いましたが、長岡が第二の故郷のように感じました。3年間は本当にあっという間でした。入学手続きをしに初めて長岡に来た日の真っ白な雪景色に驚きました。自分がこんな雪国の冬を乗り越えられるのかどうかと不安になりました。しかし、長岡で知り合った人たち、先生方、色々な国から来た留学生たちなどのおかげで私はこの3年間を楽しく過ごせてきました。本当に心の底から感謝してます。先生方をはじめ、寮事務室の方々、長岡高専の日本人の友達、そして留学生の皆さん、この3年間で大変お世話になりました。この記事を読んでいる皆さん、長岡高専はとてもいい学校なので精一杯楽しんでください。将来のことは今日の繰り返しでできているので、YOLOでチャレンジしてみてください。いつかこの社会に何かをしてあげられるような人間になるように頑張ります。



支えてくれて、ありがとう。

環境都市工学科

ファラ アキラ ビンティ アブデュル アジズ

3年前にどこの高専に行くかを決めた時、実は私は何も調べず、軽い気持ちで長岡を選びました。（確かにネットで載っていた写真を見て「景色が綺麗！」と思ってそれで決めた気がします。）その時まで家族と幼馴染に囲まれてずっと同じ町で暮らしていて、急に遠い国に行くことになった私にとっては、少し向こう見ずな行動だったかもしれませんがね。しかし、後悔はしていません。幸せな時も困難な時も含め、この3年間を長岡高専で過ごすことができて良かったです。3年の春に到着してから、先輩たち、チューター、クラスメイト、先生方も含め、次々と私を受け入れてくれる、支えてくれる人に会いました。辛くなって、諦めようとした時に真



面目に聞いてくれた友達、優しく対応してくれた職員の方々の
おかげで私はここまで来れました。小さなことなのですが、
すれ違うたびに勢いよく私に手を振って、挨拶してくれるだけ
で私の力になりました！ 本当に感謝しています。

この先、また新しいところで何が待っているのかわかりませんが、皆さまからのアドバイスを思い出して、何があっても絶対乗り越えます。そして、続いて後悔せず残りの日本にいる時間を楽しく過ごします。長岡高専の皆さま、この3年間、ありがとうございました！



長岡工業高等専門学校での勉強について

環境都市工学科5年

サオニャワン ベンワン

私は平成28年4月に長岡工業高等専門学校
の環境都市工学科第3学年へ編入学しました。編入する前
は、母国の大学と高専がどのように違うのか、どのような専門
知識を身に付けることができるかを考え、編入学を決意しまし
た。編入したばかりの頃は寮生活や授業等に慣れるのに苦労
しましたが、クラスメートや生活・学習チューターのおかげで、
寮生活や授業へ次第に慣れることができました。生活に慣れ
た後は多くの授業内容に追いつくことができ、楽しい学生生
活を送ることが出来ました。

本学科では3年間多くの専門科目を学びましたが、座学のみならず実験実習や学外での現場見学等を通じて実践的な知識を習得する機会に恵まれました。母国ではこのような教育環境が無く、本校の授業形式と卒業研究を通じて私は日本の高度な技術の基礎知識を身に付けることが出来たのではないかと感じています。また高専卒業後に大学へ進学することで、技術者になりたいという自分の目標が達成できるのではないかと思います。優れた技術を持つ人材は母国の発展のために不可欠なので、今後も頑張っていきたいと思っています。

日本は高度な技術がある先進国です。私と同様に技術者を
目指して留学したい人は、日本の高等専門学校にまず入学して
から大学・専攻科等へ進学することをお勧めします。

PICK UP 2018

T O P I C S

ロボティクス部大活躍!!

1 ロボカップ2018世界大会にて準優勝!

平成30年6月17日～21日にカナダ・モントリオールにて開催されたロボカップ2018世界大会のロボカップジュニア(RCJ)サッカーリーグ・RCJサッカーオープンにロボティクス部からチーム「Cat-Bot」が出場しました。

RCJサッカーオープンでは、Individual(個人戦)とSuperTeam(団体戦)が行われました。Individualでは、スイス方式にて全7戦が行われ、SuperTeamでは、4もしくは5カ国合同チームにより、予選2戦と順位決定戦1戦が行われました。競技の結果、Individualでは、5勝2敗で3位となりました。総合結果では、英語でのインタビュー審査やポスタープレゼンテーション審査、テクニカルチャレンジなどの各審査項目が加味され、総合成績2位となりました。英語でのインタビュー審査やポスタープレゼンテーション審査、テクニカルチャレンジが高く評価されました。

2 第3回廃炉創造ロボコンにて最優秀賞(文部科学大臣賞)を受賞

平成30年12月15日(土)に福島県の福島遠隔技術開発センターに文部科学省廃止措置人材育成高専等連携協議会の主催で開催された「第3回廃炉創造ロボコン」に機械工学科の小林勇人さん、柳翼さん、電子制御工学科の五十嵐勇人さん、奈良貴明さん、中田亘さんらのチーム「長岡高専ロボティクス部OB」, ロボット名「(CanDI)キャンディ」が初出場しました。本チームは高専ロボコンを卒業し、実践的な課題にチャレンジするために本大会に出場しました。全国の国公私立高専から応募のあった21チームから選抜された14高専15チームとマレーシア工科大学1チームの計16チームが出場しました。結果として、出場した全16チームの内、課題をクリアしたのは、チーム「長岡高専ロボティクス部OB」のみでした。しかも、競技時間10分を大きく下回る約5分での課題達成となりました。またロボットに関するプレゼンテーション審査も行われました。プレゼンと競技結果が認められ、最優秀賞である文部科学大臣賞を受賞しました。

3 全社員来校 フラー株式会社 冬期合宿 in 長岡高専

2018年1月14日(日), フラー株式会社の全社員が来校されました。本校とフルー株式会社は、昨年8月、最先端IT分野およびアントレプレナーシップ教育の実現に向けた包括的連携協定を締結しました。今回の訪問は、今後の協働教育を加速すべく、フルー株式会社の冬期合宿の一環として実現しました。

4 2018全国ビジネスモデル発見&発表会にて地域創生大賞

「スマート農業導入システムの販売/水田水位監視格安IoTシステム/ Tanboo」が3月1日から3日東京三井ホールにて開催されました。2018全国ビジネスモデル発見&発表会において、地域創生大賞を獲得いたしました。

5 平成29年度国立高等専門学校教員顕彰 文部科学大臣賞・理事長賞(若手部門)を受賞しました

平成29年度国立高等専門学校教員顕彰において、環境都市工学科の荒木信夫教授が『文部科学大臣賞』を、環境都市工学科の村上祐貴准教授が理事長賞(若手部門)を受賞し、4月24日開催の全国校長・事務部長会議において表彰状が授与されました。この教員顕彰は、高等専門学校教員が研究業績、教育者の面だけではなく、管理運営、地域社会への貢献を含み、学生教育を中心とする分野において顕著な功績を挙げている教員を顕彰するものであり、顕彰を通じて国立高等専門学校における教育の充実及び向上を目指すものです。

6 NaDeC BASE(ナデックベース)のオープニングセレモニーが行われました

6月2日(土)に長岡市大手通に長岡市内の3大学1高



3



4



5



6

専（長岡技術科学大学，長岡造形大学，長岡大学，長岡工業高等専門学校）が持つ各校の特色や専門性に，企業の技術などを融合して新産業の創出と次代に対応する人材育成を行う拠点として整備された「NaDeC BASE」のオープニングイベントが行われ，産業界，金融界，自治体及び教育機関等から約200名が参加しました。

7 長岡高専がCDIOイニシアティブに加盟決定～世界標準の工学教育を目指して～

6月28日～7月2日に石川県金沢市で開催されたCDIO（Conceive-Design-Implement-Operate）国際会議で，長岡高専はCDIOメンバーとして加盟が認められました。CDIOは，米国マサチューセッツ工科大学（MIT）とスウェーデンの3大学が2000年に考案・提唱した実践的エンジニアの育成を目指す教育体系で世界的標準となっています。

8 水泳 飛込競技 インターハイ出場決定!!

平成30年7月21日～22日の日程で，石川県金沢市にある金沢プールで開催された第51回北信越地区高校総合体育大会水泳競技大会飛込に本校の櫻井優君（環境都市工学科2年）が出場しました。昨年度から大きく点数を伸ばし，インターハイ出場の基準である標準記録を突破し見事2種目でインターハイ出場を決めました。3m板飛び込み：3位（454.30点），高飛び込み：2位（507.85点）。

9 自転車サークル快挙「第5回GENKI MAZEママチャリ8時間耐久レース 変速クラス優勝さらに総合優勝」

自転車サークルは2018年10月7日に新潟県日本海間瀬サーキットで行われた「第5回GENKI MAZEママチャリ8時間耐久レース」に参加してきました。1台のママチャリを交代しながら制限時間でコースを何周できるかを競う競技です。出走は88チーム，変速クラスにチーム「N-WORKS」として出場しました。結果は最終タイムが7時間03分06秒で走行距離が204km。変速クラス優勝，さらに総合優勝となりました。

10 第二回「発酵を科学する」アイデア・コンテストにて学生が最優秀賞を受賞しました。

平成30年11月15日（木）にアオーレ長岡にて，第二回「発酵を科学する」アイデア・コンテストが実施されました。全国高専から提案されたアイデアの中から優れた提案6点について審査が行われ，環境都市工学科5年生 永井孔明さん・中林豊博さんが提案したアイデア「日本酒の醸

造を力ガクする：生もと醸造の新たな展開」が最優秀賞を受賞しました。

11 「空間計測プレラボ」G空間EXPO2018測量コンテストで特別賞を受賞しました

平成30年11月17日に日本科学未来館にて開催されたG空間EXPO測量コンテスト（主催：（公社）日本測量協会）に「空間計測プレラボ」の2チームが出場しました。コンテストは日本科学未来館の「Geoコスモス（地球儀パネル）：直径約6m」と競技のために設置された「月球儀：直径約12cm」の中心間距離を測定し精度を競うものです。本校から，精密機器部門と自作機器部門に2チーム6名が出場し，精密機器部門のAチームが「特別賞」を受賞しました。

12 宮柊二記念館全国短歌大会で15名が受賞

第24回宮柊二記念館全国短歌大会ジュニア部門高校生の部で，本校から15名の学生が入賞し，11月17日（土）に魚沼市堀之内公民館にて表彰式が行われました。今大会では，高校生の部4,714首と多数の応募があり，貴重な受賞となりました。今年も低学年を中心に国語科の授業で取り組みました。高専生らしさと若々しさが溢れた作品が多く見られたように思います。

13 制御システム研究同好会がラズベリーパイ財団賞を受賞

ラズパイマガジン，日経Linux，日経ソフトウェア主催の「みんなのラズパイコンテスト2018」に，制御システム研究同好会が「[こくばんル]」で黒板の粉受けをきれいにしちゃう!という作品を応募しました。このコンテストは，PCボード[Raspberry Pi]（ラズパイ）を使い，電子工作やアプリケーションの作品・アイデアを競うもので，5回目となる今年は過去最大の184件の応募がありました。

14 第8回新潟県化学インターハイ8連覇達成!

12月8日から9日の2日間に渡って開催された第8回新潟県化学インターハイに参加しました。本大会は，高校化学の最高峰に挑む場を提供し，全国高校化学グランプリへの参加者の増加，ひいては国際化学オリンピックの代表，金メダルの獲得を目指す生徒を育成する事を目的として毎年開催されています。3人組でチームを編成し，筆記試験，基本・中級・上級実験の各種目で争われます。結果は，全ての部門で優勝という初の快挙を達成しました。



11



12



13



14

卒業生・修了生表彰 進路状況

卒業生・修了生表彰

■ 長岡高専の学則に定める賞

(学科)

特別表彰

機械工学科	小林 勇人
環境都市工学科	中林 豊博

功労賞

機械工学科	馬場 拓飛
機械工学科	佐藤 魁星
物質工学科	古屋 花純
物質工学科	前澤 遥
機械工学科	小林 勇人
機械工学科	柳 翼
電子制御工学科	五十嵐 勇人

電子制御工学科
電子制御工学科

精励賞

電気電子システム工学科
物質工学科

皆勤賞

機械工学科
機械工学科
電子制御工学科
物質工学科
物質工学科
物質工学科

奈良 貴明
高野 創

藤島 睦
土田 亮真

林 充輝
山崎 海登
稲川 拓真
石澤 昂昌
稻生穂乃香
岡崎 新

物質工学科
物質工学科
環境都市工学科
環境都市工学科
環境都市工学科

(専攻科)

特別表彰

電子機械システム工学専攻
物質工学専攻
物質工学専攻
物質工学専攻
環境都市工学専攻
環境都市工学専攻

西脇 優作
長谷川 輝
渋谷 航平
中林 豊博
永井 孔明

高橋 知也
伊佐 猛
樺澤 統起
加藤 美帆
西脇 天太
志田 爲御

■ 各種学会賞等

日本機械学会 畠山賞	機械工学科	小林 勇人
電子情報通信学会信越支部 学生奨励賞	電気電子システム工学科	増田 拓人
平成30年度電気学会東京支部 電気学術奨励賞	電気電子システム工学科	藤島 睦
平成30年度電気学会東京支部 電気学術女性活動奨励賞	電気電子システム工学科	古山由佳梨
第28回電気学会東京支部新潟支所研究発表会 優秀発表賞	電子制御工学科	菅井 匠
第28回電気学会東京支部新潟支所研究発表会 優秀発表賞	電子制御工学科	塩田優太郎
日本化学会関東支部 支部長賞	物質工学科	土田 亮真
日本化学会関東支部 支部長賞	物質工学科	リー カー マン
全国高専土木工学会 近藤賞	環境都市工学科	林 純哉
平成29年度土木学会全国大会 第72回年次学術講演会 優秀講演者賞	電子機械システム工学専攻	高橋 知也
日本機械学会北陸信越学生会 第48回学生員卒業研究発表講演会支部賞学生賞	電子機械システム工学専攻	綱 玄太
第27回電気学会東京支部新潟支所研究発表会 優秀発表賞	電子機械システム工学専攻	牛腸 裕貴
第28回電気学会東京支部新潟支所研究発表会 優秀発表賞	電子機械システム工学専攻	丸田 裕輝
電子情報通信学会信越支部 学生奨励賞	物質工学専攻	伊佐 猛
International Conference of "Science of Technology Innovation" 2018 (STI - Gigaku2018) Best Poster Award	物質工学専攻	加藤 美帆
第9回アジアきのこ学会 ベストポスター発表賞	物質工学専攻	樺澤 統起
第9回日本醸造学会若手シンポジウム ベストポスター賞 -醸造イノベーション賞-	物質工学専攻	中村 港
第20回化学工学会学生発表会 優秀賞	物質工学専攻	中村 港
平成30年度土木学会全国大会 第73回年次学術講演会 優秀講演者賞	環境都市工学専攻	志田 爲御
平成30年度土木学会全国大会 第73回年次学術講演会 優秀講演者賞	環境都市工学専攻	西脇 天太

■ 同窓会長賞

バスケットボール部

電気電子システム工学科	新野 謙
電気電子システム工学科	藤島 睦
電気電子システム工学科	渡邊 守
物質工学科	佐藤 大河

柔道部

電子制御工学科	佐藤 大海
---------	-------

硬式野球部

機械工学科	大野 渉
機械工学科	田口 康介
電気電子システム工学科	井上 駿

物質工学科
環境都市工学科
環境都市工学科

ロボティクス部

電子制御工学科
機械工学科
機械工学科
電子制御工学科
電子制御工学科

プレラボ

物質工学科

児玉 夏樹
太田 公輔
滝澤 一輝

高野 創
小林 勇人
柳 翼
五十嵐 勇人
奈良 貴明

吉沢 舞凜

物質工学科

水泳部

機械工学科
電子制御工学科
電子制御工学科
物質工学科
環境都市工学科

バドミントン部

機械工学科

稻生穂乃香

佐藤 瑠唯
西村 護
山賀 大暉
鎌田 大輝
金子 泰士

大和 将真

進路状況 (平成31年3月現在)

学科

学 科	区 分	卒業者数	進学者数	就職者数			研究生等
				県 内	県 外		
機械工学科		45	21	22	9	13	2
電気電子システム工学科		42	23	18	8	10	1
電子制御工学科		39	28	11	6	5	0
物質工学科		47	29	18	4	14	0
環境都市工学科		35	24	11	6	5	0
計		208	125	80	33	47	3

専攻科

専 攻	区 分	修了者数	進学者数	就職者数			研究生等
				県 内	県 外		
電子機械システム工学専攻		26	11	15	3	12	0
物質工学専攻		10	2	7	0	7	1
環境都市工学専攻		8	2	6	4	2	0
計		44	15	28	7	21	1